

平成 28 年度事業報告書

1 平成 28 年度事業の概要

平成 28 年度は、公益目的事業、公園収益事業とも積極的に事業を展開した。28 年度予算では正味財産の減少を見込んでいたが、経営努力により着実に収益を上げ、減少を避けることができた。

公益目的事業においては、地球温暖化対策、生物多様性の確保、良好な生活環境や地域交流、防災等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため、引き続き京都市緑の基本計画等に基づく活動を推進した。

公 1（都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業）では、都市緑化に関する講習会、自然に親しむ体験活動、稀少植物の保全に関する企業団体とのネットワーク事業、公園を生かした緑のイベントの開催等を行った。このうち梅小路公園及び宝が池公園子どもの楽園の指定管理事業では、引き続き利用者の利便性・快適性確保のための設備・運用改善を行った。梅小路公園においては、新たに京都鉄道博物館が開業（平成 28 年 4 月 29 日）したことから、京都駅から公園周辺にかけてのエリアマネジメントの気運が高まり、同博物館、京都水族館等の公園施設管理者、エリアの企業・団体、及び京都市等との連携を強め、公園及び周辺地域の活性化につながる各種事業を行った。

公 2（京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業）では、日本庭園の良好な保全管理や京都の庭園文化の情報発信等を行った。

公園収益事業においては、上記の取組が受託収益や梅小路公園の利用料金の増収に反映したほか、他の事業収入も概ね堅調に推移した。

法人業務においては、評議員会を 1 回、理事会を 2 回開催した。また、京都市外郭団体自律化の取組を財務面で引き続き進めた。京都市補助金の受入れを 27 年度以降廃止しているが、収益面では、指定管理業務以外の受託事業の拡大等により、経常収益計は前年度を上回った。費用面では、事業量の増加に伴い人件費、修繕費、委託費が増加したが、他の経費の抑制及び優遇税制の活用を行った。これらにより、当期一般正味財産増減額はプラスとなり、5 期連続で黒字経営を保つことができた。

2 平成 28 年度の事業実施状況

I 公益目的事業 決算額 206,266 千円 （予算額 208,793 千円）

I-1 都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業 決算額 183,295 千円 （予算額 181,386 千円）

京都の都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営する公園等を拠点として、各地域において、講習会、イベント、広報その他様々な事業を行った。

(1) 緑の学校と人材育成

緑化に関する各種の講習会を実施し、緑化リーダー（(6)イ関連）などを育成する「緑の学校」を運営した。

ア 園芸関係の講習会等

a 園芸講習会

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 18 人，後期 17 人 ・参加者数 6 回計 101 人
- ・受講料 前期 3,000 円，後期 3,000 円
- ・各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第 1 回	4 月 21 日	コンテナ植えの夏・秋草花と夏野菜
	第 2 回	5 月 26 日	ハンギングバスケットづくり・用いやすい植物
	第 3 回	6 月 30 日	草花の夏越しと乾燥に強い植物・ハンギングタブロー
後期	第 1 回	10 月 20 日	秋咲き草花とカラーリーフの寄せ植え
	第 2 回	11 月 17 日	植物の冬越し，秋植え球根と冬咲き草花の寄せ植え
	第 3 回	12 月 15 日	クリスマス飾りとしてのオリジナル花飾り

(27 年度は計 6 回実施。)

b 季節を楽しむ園芸教室

園芸で四季を楽しむ単発の教室・講習会・体験コーナーを開いた。

教室名	開催日	講師	受講料	参加人数
クリンソウを育てる教室	4 月 23 日	藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	1,000 円	26 人
フジバカマを使った染物教室	11 月 3 日	谷口睦子（西山野遊び工房）・藤井肇（緑化リーダー）	2,500 円	25 人
多肉植物の寄せ植え体験／下京区ふれ愛ひろば（梅小路公園）	11 月 13 日	梅小路公園花と緑のサポーターの会	500 円	36 人
クリスマスと正月に飾るリースの寄せ植え教室	12 月 6 日	烏賀陽百合（ガーデンドesigner）	3,000 円	22 人

(27 年度は 6 回実施。)

c 地域での出張園芸講習会等

(5) まちなみ緑化事業関連の普及活動や、行政、緑のボランティア団体（(6)イ）からの要請等により、出張して講習会等を主催、又は講師を派遣した。

場所／テーマ	開催日	講師	参加人数	備考
高倉小学校（中京区）／ヒオウギ講習会	5 月 27 日，10 月 17 日	藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	計 134 人	中京区役所主催
島原のぞみデイサービス（下京区）／植替え講習	6 月 2 日，7 月 12 日，8 月 9 日，9 月 6 日，10 月 6 日，12 月 8 日	寺田裕美子，駒井修（協会）	通所者 21 人 園芸セルフケア受講者 9 人	まちなみ緑化支援

中京区役所／器づくりから楽しむ鉢植え講座	10月28日	駒井修(協会)	18人	中京区役所主催
朱雀第四学区・朱雀第四小学校(中京区)／京エコライフプログラム「グリーンUP」プロジェクト	9月13日, 10月11日, 11月29日, 1月16・19日, 2月22日, 3月9・16日	駒井修, 伊藤信太郎(協会)	計240人	京エコロジーセンター主催, まちなみ緑化支援
菊浜連合会(下京区)／高瀬川・正面公園周辺の緑化(植替え, ワークショップ)	7月5日, 11月18・25日	駒井修(協会)	76人	まちなみ緑化支援
崇仁学区(下京区)／すうじん安全・安心フラワー事業(花壇整備)	3月16日(スタート式)	駒井修(協会)	25人	京都府下京警察署・崇仁学区

(27年度は6箇所を実施。)

イ 花壇づくりの講習会

a 園芸セルフケア教室

園芸療法士の指導により, 植物の手入れを通して自身の健康チェックと生活リズムを整える教室で, 梅小路公園の花壇等で27年度より開催。植物名, 四季を通じた植物管理を学ぶとともに参加者間の交流を図った。

- ・講師 花と緑の普及員 寺田裕美子
- ・開催日 毎週木曜日 計47回
- ・受講料 500円(年間)
- ・受講者 15人
- ・参加者数 のべ405人

b まちを彩る花植え教室

園芸グループ等が, 自らの地域・施設等で作る花壇等の花飾りのデザイン, 整備, 管理までの流れを学んだ。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期11人, 後期14人
- ・参加者数のべ99人
- ・受講料 前期2,000円, 後期2,000円

	開催日	内容
前期(夏～秋花壇)	5月24日・31日, 6月14・21日	夏～秋にかけて咲く花を学ぶ, 花壇の設計, 地ごしらえと管理計画, 花壇の植え付け
後期(秋～春花壇)	10月18・25日, 11月8・10・15・22日	冬～春にかけて咲く花を学ぶ, 花壇の設計, 地ごしらえと管理計画, 植え付け

(27年度は前期4回, 後期4回シリーズ。)

ウ 家庭の庭づくり講座

おもに家庭などでの身近なガーデニング(庭づくり)について, 計画の立て方から造成, 植栽, 維持管理, 庭での楽しみ方まで, 講師との対話形式で学んだ。

- ・講師 花と緑の普及員 野杖勝俊
- ・受講者 前期15人, 後期21人
- ・参加者数 12回のべ165人
- ・受講料 2,000円

	開催日	実施内容
前期 (夏～秋)	6月24日, 7月8・22日, 8月19・26日, 9月9日	家庭の「庭づくり」, 」自宅の庭を考える, 庭を造って植える, 庭木の手入れ(剪定), 草花の手入れ, 庭の楽しみ方
後期 (冬～春)	1月27日, 2月3・17日, 3月10・17・31日	家庭の「庭づくり」, 」自宅の庭を考える, 庭を造って植える, 庭木の手入れ(剪定), 草花の手入れ, 庭の楽しみ方

(27年度は年間で6回実施。)

エ 庭園ガイドボランティア養成講座

庭園文化講座 (I-2ウ) の受講修了者等を対象に, 「朱雀の庭」及び「いのちの森」のボランティアガイドを募集, 養成するもので, 他の庭園のデザイン・案内方法等の研修を行った。

- ・開催日・内容(講師) 2月25日 朱雀の庭(吉田昌弘), 3月11日 ガイド見学・ガイドダンス, 3月18日 いのちの森(いのちの森モニタリンググループ田端敬三)
- ・参加者 のべ10人

オ 緑の散策ツアー

市内各地のまちなかの緑のスポットを訪ね歩き, 緑にかかわる歴史文化や快適な生活環境づくりを考えるツアー, 及び, 庭園見学に絞った散策ツアー(京の庭めぐり)を造園家等の協力により開催した。

- ・参加費 1,000円(入園料, インカム使用料別。)

回	開催日	コース/講師	参加者数
第1回	5月25日	三千院～乙が森～寂光院～里の駅大原など/駒井修 (協会花と緑の普及員)	6人
第2回	12月6日	圓通寺庭園～西村家庭園/吉田昌弘(協会理事, (一社)日本ランドスケープコンサルタンツ協会顧問)	18人
第3回	3月23日	天龍寺庭園～大河内山荘庭園/吉田昌弘(協会理事, (一社)日本ランドスケープコンサルタンツ協会顧問)	19人

(27年度は5回実施。)

(2) 自然環境に関する講習会・体験活動

ア 体験型講習会, 自然観察会等

自然観察会, プレイパークでの子ども及び家族向け自然教室等の充実を図った。

a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ, 自然の仕組みを理解していただくことを目的として, ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会(森本幸裕代表)いのちの森モニタリンググループ, 協会職員等。

① 月例等定期の観察会

- ・参加料 無料(別途いのちの森入園料200円。グリーンフェア時は無料。)
- ・各回の実施内容(計14回・参加者計 214人)

開催日	テーマ	開催日	テーマ

4月16日	植物の観察 1	10月1日	グリーンフェア観察会
5月3日	グリーンフェア観察会	10月15日	植物の観察 6
5月21日	植物の観察 2	11月19日	植物の観察 7
6月18日	きのこの観察	12月17日	植物の観察 8
7月16日	植物の観察 3	1月21日	野鳥の観察
8月20日	植物の観察 4	2月18日	公園植物の観察
9月17日	植物の観察 5	3月18日	植物の観察 9

(27年度は14回実施。)

- ・「いのちの森20周年記念誌」(兼2015年度報告書)の発行(10月1日) 京都ビオトープ研究会発行(緑化協会協力)。開園20年の成果、関係者の寄稿、関連年表、文献リスト、今後の方向性の検討意見等を掲載。部数200部、研究会HPで公開。

② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

子ども向け自然観察会を24年度からシリーズ化して開催。いのちの森周辺の季節の移り変わり、植物の生長を見守り、収穫して利用する体験を通して自然に親しむ機会をつくった。

- ・講師 いのちの森モニタリンググループ(田端敬三・北川ちえこほか)、端清隆(京都市農業委員会)、小谷尚江(協会プレイパークリーダー)
- ・対象 小学生(一般公募、公園周辺小学校・児童館) ・受講料 600円(6回分)
- ・各回の実施内容(参加者数 6回のべ161人。保護者除く)

回	開催日	内 容
第1回	5月21日	田植え体験
第2回	6月20日	きのこの観察
第3回	7月16日	田んぼまわりの生きもの観察
第4回	8月6日	工作体験
第5回	9月17日	稲刈り体験
第6回	10月15日	脱穀体験

(27年度は6回実施。)

③ 京都市生物多様性プランリーディング事業への協力

京都市環境政策局が生物多様性プランのリーディング事業として、いのちの森を会場として実施した事業のプログラム作成等の受託、その他の協力を行った。

- ・生きものみつけラリー 6月25日・26日、京都水族館といのちの森での親子向けクイズラリー。親子52組参加。
- ・親子生きもの探偵団 8月4日、親子向けの自然観察会。講師・いのちの森モニタリンググループ等。親子23組参加。

b 宝が池公園自然あそび教室

① 子どもの楽園周辺の自然を生かした教室等

自由な遊びを中心とする通常のプレイパーク活動((7)エ)とは別に、子どもの楽園とその周辺の自然環境を生かし、遊びながら学べる教室を実施。自然観察のほか、クラフト、自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラムを行った。

- ・開催日 原則第1・第3土曜日
- ・実施回数 計27回(27年度は31回実施) ・のべ参加人数1,118人
- ・特別プログラム 森のめぐみで草木染め体験、初夏・虫たちの世界をたずねよう、

川であそぼう生き物を探そう，ナイトウォッチング～セミ羽化観察～，縄文式土器づくりに挑戦（（公財）京都市埋蔵文化財研究所協力），夏休みキャンプ，色とりどりに染まる宝が池ハイキング，宝が池に水鳥に会いに行こう等

② 京都工芸繊維大学との共催による観察会

- ・テーマ「秋の虫へGO！子ども自然観察会～自然のふしぎ発見」
- ・開催日 9月10日 ・場所 京都工芸繊維大学15号館，屋外
- ・講師 齊藤準（京都工芸繊維大学準教授），京都北山やままゆ塾
- ・参加者 31人（小学生と保護者）

イ 環境学習養成講座

体験型の環境学習の活動を支える人材（リーダー）の養成を，学習会や子ども向けプログラムの実践を通じて行った。

a 宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」をテーマに，低利用，ナラ枯れ，シカ害等により次世代の植物が育たない危機的な状況にある森の問題を，座学とフィールドワークで多面的に考える連続学習会。このうち第6回は，京都市都市計画局，産業観光局，建設局の3局が毎年3月に行う普及啓発事業「出合いでつなぐ，京都三山の森づくり」の北山エリアの取組として実施した。

- ・参加費 （6回分）1000円（一般），500円（中高生）／（1回分）200円
- ・場 所 京都府立大学，上高野防災会館等
- ・参加者 のべ127人

回	開催日	内 容／ 講 師（敬称略）
第1回	6月25日	里山と人と生物多様性～里山の基本&宝が池の森をあるく／鎌田磨人（日本生態学会／徳島大学教授），野田奏栄（緑化協会／（公社）大阪自然環境保全協会）
第2回	7月24日	森とつながる“水域”の生物の生息環境／竹門康弘（京都大学准教授／深泥池水生生物研究会）
第3回	9月18日	森の環境基盤を学ぼうー土を学ぶ／長島啓子氏（京都府立大学助教），中尾淳（京都府立大学助教）
第4回	11月6日	森林再生にむけて～行動と実践1 野生生物ー／柴田昌三（京都大学教授），高柳敦（京都大学講師）
第5回	12月18日	森林再生にむけて～行動と実践2 森を育てる／田中和博（京都府立大学教授），齊藤準（京都工芸繊維大学準教授），京都宝の森を作る会・宝ヶ池の森保全再生協議会有志
第6回	3月11日	宝が池界隈の歴史からみる森とくらし（歴史探察ツアー）／吉崎伸（京都市埋蔵文化財研究所）

（このほか調査実習1回）（平成27年度は6回実施）

ウ 公園・庭園の樹木と対話する教室

梅小路公園内を歩き，植物名の由来，生活での利用方法，造園コンセプトに基づいた景の見方など季節に合わせた解説を行い，植物や緑の文化に親しんでいただいた。

- ・開催日 4～7月の第1金曜日 ・実施回数 計4回
- ・講師 野杵勝俊（協会相談員・花と緑の普及員）

- ・受講者 計 29 人
 - ・受講料 無料（庭園に入る場合は別途入園料。）
- （27 年度は 12 回実施。）

(3) 花とみどりの相談所（緑の相談所）運営

ア 相談業務

植物、園芸等に関する無料相談を梅小路公園で行った。また、地域団体等からの要請により、公園外への出張相談等も行った。

- ・相談日 毎週 2 日（水曜日、土曜日）及びイベント等での出張相談
- ・時 間 午前 10 時～午後 4 時まで（面談又は電話による。）
- ・相談員 原田弘種、野杵勝俊（定例）、花と緑の普及員・緑化リーダー等（出張相談）
- ・実 績 相談日数 114 日
相談件数（内容別） 1,012 件（うち面談による相談 53.4%）
（平成 27 年度は件数 1,005 件、うち面談による相談 55.8%）

イ 京都ゆかりの稀少植物の保全・普及

各地の団体・個人と連携し、京都ゆかりの稀少植物を保全・普及する活動を継続して進め、すそ野を広げていくため、当協会内において稀少植物の栽培保全を行うとともに、ネットワークづくりや他団体の支援に取り組んだ。

a 京都市「京の生きもの文化協働再生プロジェクト認定制度」に基づく技術指導

認定を受けた団体に対し、京都市の依頼を受け、技術指導等を行った。

- ・（株）島津製作所 7 月 15 日 当協会事務所
テーマ 同社敷地内「島津の森」への希少植物導入について
- ・洛西ニュータウン創生推進連絡会小畑川活用検討チーム 10 月 31 日 西京区役所洛西支所
テーマ フジバカマの育成、利用法等について（チーム参加者 13 人）

b 施設・環境イベント等での普及啓発活動

- ・市役所ロビー
祇園祭期間中の高倉小学校（中京区）のヒオウギ（自生種）展示に協力／「都市緑化月間」（10 月）行事の建設局みどり政策推進室のポスター展示に参加（広報誌紹介、フジバカマ実物展示）
- ・京都駅ビルでの稀少植物展示
緑化展示施設「緑水歩廊」で稀少植物のフジバカマ（9 月 27 日～10 月 7 日）、キクタニギク（11 月 18～11 月 30 日）を展示し、特性や関連する生活文化をパネル解説。
- ・生物多様性協働フォーラム（同フォーラム事務局主催）へのポスター出展
12 月 4 日（日） 場所・大阪府国際会議場（グランキューブ）

c 東山における「キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ」事業への協力

「京都伝統文化の森推進協議会」（事務局・京都市林業振興課）が、平成 29 年 3 月 4 日（土）、高台寺山国有林内の菊溪川支流で「キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ～植栽活動～」を実施。これに先立ち、キクタニギクに関する情報の提供、K E S 生物多様性プログラム参加企業・団体（**ウ関連**）を通じた苗の確保などの協力を行った。

d 京都学園大学連続セミナー「和の花と生き物文化の再生」の共催

京都の文化を支えてきた在来の植物の多くが、生育環境の変化により絶滅の危機に瀕している。保全再生の取り組みが始まっている種もあるが、この状況を広く知っていただき、担い手の交流と拡大、産公民学連携を推進するために、京都学園大学が連続セミナー

一として開催した。当協会は共催し、企画等に協力した。

- ・主 催 京都学園大学
- ・共 催 (公財)京都市都市緑化協会
- ・場 所 京都学園大学京町家キャンパス「新柳居」(中京区)
- ・参加費 無料
- ・参加者 6回計176人

回	開催日	実施内容／話題提供者
第1回	10月4日	藤袴プロジェクトの展開に向けて／藤井肇氏(大原野森林公園森の案内人, 協会緑化リーダー)
第2回	11月1日	市民・学校・植物園と大学による『環』の花保全：オオキンレイカでの実践例／瀬戸口浩彰氏(京都大学大学院人間・環境学科教授)
第3回	11月29日	キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ／中筋祐司氏(京都市産業観光局林業振興課森林保全係長)
第4回	12月13日	企業と生物多様性：『和の花』保全再生の社会的展開／津村昭夫氏(KES環境機構専務理事)
第5回	1月17日	フタバアオイを考えるーコモンズ論の視点から／秋道智彌氏(総合地球環境学研究所名誉教授・葵プロジェクト副理事長)
第6回	2月7日	チマキザサ保全活動の現状と将来的な展開の検討／東口涼氏(京都大学大学院・GSS)

ウ KES生物多様性プログラムへの参画

KES(京都環境マネジメントシステム・スタンダード)の認証登録を行う特定非営利活動法人KES環境機構が26年度から実施している生物多様性プログラム「エコロジカルネットワークプロジェクト」に参画した。28年度は稀少植物の生息域外保全のほか、新たに自社敷地緑化、地域活動も環境改善目標に採り入れており、計182団体が参加した。

- a 事前説明会(京都工業会館) 6月3日 108社 147人
講演「都市における生物多様性の考え方」森本幸裕・京都学園大学教授・協会理事長
- b 栽培講習会(京都工業会館) 6月17日 72社 91人 6月24日 53社 67人
講師 特定非営利活動法人葵プロジェクト, 藤井肇・秦賢二(協会緑化リーダー)
フタバアオイ, フジバカマ, ヒオウギ, キクタニギク, オミナエシ, カワラナデシコ
ほか計6種について、栽培管理について講義及び実習指導。
- c 「雨庭」に関する講演会「グリーンインフラ・雨庭について学ぼう」への協力
主催 京のアジェンダ21フォーラム
開催日 3月27日, 場所 朱雀第4小学校 参加45人
講師 森本幸裕(京都学園大学教授, 緑化協会理事長)
内容 エコ改修による雨水貯留・利用施設を有し、京エコライフプログラムが実施された朱雀第4小学校を会場に、KESプロジェクト参加企業・団体等を対象とした講演及び報告会等

エ 公益社団法人日本植物園協会への加入

全国の公設・私設の植物園等をつくる(公社)日本植物園協会に、花とみどりの相談所(緑の相談所)を運営する団体として28年度に加入した(正会員)。同協会が取組む稀少植物保全等に関する情報交換、ネットワークへの参画の検討を始めた。

- ・第1回技術者講習会（キク科オケラ属に関する研修）への参加（神奈川県）
10月21（北里大学薬用植物園）22日（秦野市オケラ自生地）

(4) 緑のイベントの開催及び支援

緑に関連する各種団体や京都新聞社、KBS京都等のマスメディアとの連携を図りながら、植物、緑の文化、公園緑地の多面的な大切さを訴える様々なイベントを開催した。

ア みどりの月間、都市緑化月間等のイベントの開催、協力

みどりの月間（4～5月）、都市緑化月間（10月）に、「守ろう！古都の自然」キャンペーンとして、グリーンフェア春／秋、春の和の花展、藤袴と和の花展などの様々なイベントを実施した。

a 梅小路公園グリーンフェア 2016 春／秋

爽やかなみどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ、安らぎ、にぎわいを多くの市民に感じていただくために、春と秋の2回実施した。

	開催日	天候	来場者数
春	5月 3日（火・祝）	晴	47,000人
	5月 4日（水・祝）	晴	54,000人
秋	10月 1日（土）	曇	26,000人
	10月 2日（日）	曇一時雨	24,000人
計			151,000人

※秋は「市民ふれあいステージ」同時開催。

b 春・秋の和の花展

自然保護団体や園芸家の協力により、絶滅危惧種を含む山野草、古典園芸植物等の屋外展示、イベントを行い、身近な自然環境を守る大切さを訴えた。

① 春の和の花展（第7回）

- ・期間 4月23日～5月8日（15日間） ・会場 梅小路公園朱雀の庭、緑の館
- ・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約130種250鉢を展示。
- ・イベント 和の花を育てる教室、お茶席、ガイドツアー等
- ・企画展示 プラントハンターを魅了したクリンソウの世界、クリンソウとサクラソウの仲間たち、いのちの森・水辺を彩るクリンソウ
- ・入場者数 1,650人

② 藤袴と和の花展（第8回）

京都放送(KBS京都)の「守ろう！藤袴プロジェクト」をきっかけに平成21年度から開催。KBS京都創立65周年を記念して、府絶滅寸前種であるフジバカマを例年より多く約410鉢を庭園内の浅池に、約90鉢を庭園北側の中央園路に展示。また、京都府レッドリスト掲載の種を含めた山野草等約175種305鉢を展示した。また、休耕田でフジバカマを保全栽培している水尾自治連合会（右京区）、なんやかんや「大原野」推進協議会、市街地で栽培展示を行っている深草藤袴の会（伏見区）、御所藤袴の会（上京区）とも広報等の協力を行うとともに、KESプロジェクト（(3)イ a 参照）参加企業団体の育成鉢の展示も行った。

- ・主催（共催） 緑化協会・（株）京都放送
- ・期間 9月22日～10月10日（17日間） ・入場者数 2,193人
- ・イベント KBS京都ラジオ公開生放送（10月2日）、香老舗松栄堂「水尾より

届いた藤袴の香り，渡りの蝶アサギマダラなんでもコーナー（BVアサギマダラの会），山野草展示即売会，お茶席，和の花展ガイドツアー

- ・同時開催 乙訓の自然を守る会「写真と標本で知る乙訓の自然——フジバカマに集まるアサギマダラと虫たち」（10月7～10日）
- ・企画展示 和の花の色目（着物などで用いる襲（かさ）ねの色目の見本を，出展の植物とともに展示），子どもたちが描いた藤袴
- ・連動企画 京都駅ビル「緑水歩廊」での藤袴展示，御池通スポンサー花壇でのフジバカマ鉢の設置，第1回京都藤袴サミット in 大原野（なんやかんや「大原野」推進協議会主催）の後援

c 梅まつり in 梅小路

梅小路公園内にある梅林をPRするため，下京区役所と協力し開催。期間中，床几を置くなどして，ゆっくり鑑賞していただけるよう工夫した。

- ・期 間 2月25日～3月5日
- ・イベント 梅こぶ茶振舞い・梅の剪定教室（参加者70人）等

d 京都まちとみどり写真コンクール

緑あふれるまちづくりを推進する第32回「京都まちとみどり写真コンクール」を共催した。計484点の応募があり，このうち30点が入賞・入選した。入賞・入選作品は梅小路公園「緑の館」で展示された後，山城総合運動公園，京エコロジーセンター，けいはんな記念公園，長岡京市中央生涯学習センター，京都府庁の府内5か所で展示された。

- ・主催 京都府都市計画協会主催
- ・共催：京都府，京都市，（公財）京都府公園公社，（公財）京都市都市緑化協会，（一社）京都造園建設業協会
- ・表彰式 10月1日（梅小路公園「緑の館」）

e 地域イベントへの参加

区民まつり等に市民団体と協会が共同で出展，または出展を支援し，園芸体験コーナーを設ける等の活動を行った。

イベント名	開催日	場 所
堀川・桜まつり	4月5日	堀川河川敷（一条戻橋～押小路橋）
中京区民ふれあいまつり	10月30日	中京中学校グラウンド
下京区ふれ愛ひろば	11月13日	梅小路公園

イ 「みどり」に関連した多彩な教室の開催

a 草木染めを使ったパッチワーク教室

公園のエンジュやカキの木の葉等で草木染めした布を使い，バッグやポーチを制作。開催日の午前・午後に約20人ずつが受講。

- ・講師 池田由美子
- ・第1期 開催日 5月12・26日，6月9・23日，7月14日
- ・第2期 開催日 9月15・29日，10月13・27日，11月24日
- ・第3期 開催日 1月12・26日，2月9・23日，3月9日
- ・各日午前・午後の2回実施 のべ実施回数30回 ・のべ参加者数548人

b 梅の実採り体験

利用者に愛されている梅林内のウメの実の盗難防止を兼ね，事前に告知を行い，子どもを含め，梅の実採りを体験していただいた。

- ・開催日 5月31日 ・参加者数 245人
- ・実施協力 梅小路公園花と緑のサポーターの会

c クラフト教室等

- ・クリスマスリースづくり 12月10日
指導 梅小路公園花と緑のサポーターの会 参加者 30人 参加費 500円

(5) 市街地緑化事業

ア まちなみ緑化モデル支援事業

緑視率の向上及び町並み修景を図るため、和の花や和のイメージの容器（鉢物・プランター）を、施設、住宅の軒下、マンション・事業所入口等の敷地に設置し、管理していただく団体への技術的支援等を行った。（(1)アc参照）

① 島原のぞみデイサービスの沿道（下京区）

通りに面した「花矢来」、ハンギングバスケット等の植替え・管理の指導。

② 菊浜学区「花回廊づくり」（下京区）

六軒橋東詰、高瀬川正面公園、家屋軒下のコンテナ花壇の植替え、高瀬川沿いの街路樹帯への植栽と管理の指導。

③ 朱雀第四学区京エコライフプログラム(中京区)への協力

通りに面したコンテナ花壇の植付指導、小学校に隣接する西ノ京公園の花壇づくりへの協力

イ 御池通スポンサー花壇巡回管理業務

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）で、沿道の事業者・市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助、ニュース発行、ボランティア募集、講習会の実施等の普及啓発を行う業務を受託した。祇園祭に合わせてダルマヒオウギを植えるなど、京都らしさや季節感の演出に努めた。（(6)アa参照）

- ・全面植替え4回、巡回管理のべ137回（全区間相当56回）
- ・ニュース（スポンサー花壇だより）発行6回、アンケート調査1回
- ・座学講習（デザイン検討）2月15日 15人参加

(6) 緑の団体支援事業

ア 「京都みどりのサポーター協議会」の運営

地域で緑化を担う緑の活動団体と本協会が協働で緑化を進めるための組織「京都みどりのサポーター協議会」を運営する。

各地で緑化を担う緑の活動団体と本協会が協働で緑化を進めるための組織「京都みどりのサポーター協議会」を運営した。

- ・参加団体 梅小路公園花と緑のサポーターの会（岩永忠正代表）、中京・花とみどりの会（西村勇代表）、NPO 法人科学技術による環境保全を考える会（前・地域社会の環境保全と科学技術の振興を目指す会）（飯井基彦氏の死去に伴い吉田維之理事長が就任）、小野芙蓉会（谷中登美行代表）、京都みどりクラブ（久武公一代表）
- ・会長＝西村勇、副会長＝岩永忠正

a 京都市御池通スポンサー花壇の沿道「サポーター」への支援

日常の手入れを担う事業所等の沿道の団体・個人であるサポーターの活動を補助・支援（点検、整姿、病虫害防除等）した。

b 協議会参加団体と協力した地域イベントへの出展 ((4)ア e 参照)

c 事例研修

10月22日(土) 神戸布引ハーブ園・神戸市立森林植物園 参加者57人

イ 緑のボランティア団体の活動支援

ボランティアベースの緑の活動団体(有志団体、町内会・自治会、企業・学校内サークル等)の活動を支援、情報交換・交流を促し、協働の取組みを推進するための緑のボランティア活動支援センター(仮称)の機能として、「花とみどりの相談所」を活用し、相談員・緑化リーダーの派遣、余剰資材の提供等を行った。

(7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

ア 梅小路公園指定管理業務等の受託

良好な維持管理水準と安全安心を確保し、利用者の利便性、満足度を向上させるため、引き続き施設改善(緑の館イベント室照明のLED化、老朽施設修繕等)を行うとともに、全国最大級の規模となる京都鉄道博物館の開業(4月29日)に協力・対応し、警備員等の特別配置(4月28日～5月8日)、臨時駐輪スペースの設置、緑の館休館・庭園休園日の特別開園(5月2日)等を行った。

指定管理区域外の遊戯用電車(チンチン電車)の運行については、公園一体として行うべきであることから、28年度も引き続き京都市から運行業務を受託した。

a 梅小路公園・施設管理者連絡会の開催

平成28年春の京都鉄道博物館の開業をにらみ、各公園施設の管理者が情報交換し、相互の事業の調整や協力、安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」を、事務局として開催した。

・28年度開催(計4回)

第8回・4月13日、第9回・7月13日、第10回・10月12日、第11回1月19日
・構成 京都市建設局みどり政策推進室・南部みどり管理事務所(公園設置・管理者)、オリックス水族館(株)(京都水族館)、西日本旅客鉄道(株)京都支社、(公財)交通文化振興財団(梅小路蒸気機関車館(8月30日閉館)、京都鉄道博物館)、(株)コラボ(グリーンハウスコラボ、梅小路パークカフェ)、(株)京都駅観光デパート・(株)エーゲル(市電カフェ)・(株)立誠社(市電ショップ)、(一財)京都市都市整備公社(駐車場、駐輪場)、及び当協会(公園指定管理者)

イ 梅小路公園及び周辺エリアの活性化等に関する事業

「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト(京都・梅小路まちづくり推進協議会)」及び「京都駅西部エリアまちづくり協議会」(代表・森本幸裕・当協会理事長。商店街、自治連合会、企業、寺院、行政等の18団体で構成。)

の構成メンバーとして、公園及び周辺地域のにぎわい創出の取組みに参画した。

a 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」関連受託事業等

① ルート環境整備業務等の受託

京都駅から公園に至るルートの環境整備を目的とする巡回、道路及びモニュメント等の清掃、案内、フラワースポット(コンテナ花壇、地植え花壇)の新設及び植替え・維持管理等

② 総合案内所(公園内2か所)の外国人対応

③ 公園芝生広場オールシーズン緑化実験

公園無料区域としては全国的にも珍しいウインターオーバーシード手法によるオールシーズン緑化の実験を行った。

④ 「京の七夕」梅小路会場(8月6～12日)のイベント

オープニングイベントの「行燈づくり」の実施及び七夕飾りの笹の提供等

b 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」実施イベントへの参加

① 梅小路キッズアートキャンパス 11月23日、安寧小学校での家族連れを対象とした会員団体によるイベント。当協会は「出張プレイパーク」を実施。

② 「京都・冬の光宴 2017」(2月3日～12日) 2月4・11日、チンチン電車の夜間ライトアップと特別運行を実施。

③ 合同清掃 京都駅から梅小路公園までの5ルートを会員団体が合同で清掃。毎月1回。

c 公園への各種イベントの開催、展示会の誘致等

当協会の共催イベントのほか、地域団体のイベント等で当協会が積極的に協力するイベント等がある。28年度のおもなイベント(例)は次のとおり。

開催日	イベント名
第1土曜日	梅小路手づくり市(5月, 1月を除く。) ※協会との共催事業。
4月2～3日	京都さくらよさこい
4月29日	第87回京都中央メーデー
5月1日	ビー・トライブ春の発表会(ダンス発表会)
5月3～4日	アースキャラバン(グリーンフェアとの同時開催)
5月5日	メイドイン京都
5月29日	下京区民グラウンドゴルフ大会
6月5日	第13回カフェカブパーティーIN京都
7月3日	サマーフェスタ2016 夏の大感謝祭(JA京都市)
8月6～11日	京の七夕(梅小路公園会場)
9月3日	京都市防災訓練
9月10日	第20回梅小路公園ふれあいコンサート(下京少年補導委員会と近隣の学校)
9月18日	京都音楽博覧会IN梅小路公園(第10回)(京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力)
9月25日	リベレーションフェスタ(人権擁護啓発の交流イベント)
10月1～2日	京都文化祭典市民ふれあいステージ(グリーンフェアとの同時開催)
10月8～10日	太陽と星空のサーカス(京都・梅小路みんながつながるプロジェクト)
10月15日	京都市ほほえみ広場2016(障がいのある市民・ない市民の交流イベント)
10月29日	京都やんちゃフェスタ2016
11月13日	下京区ふれ愛ひろば(下京区役所等)
11月26, 27日	メイドイン京都フェスタ
2月3～12日	京都・冬の光宴(京都・梅小路みんながつながるプロジェクト)
2月20日	自動車関連犯罪被害防止防犯イベント(京都府警察)
3月4～5日	第7回京都ツーカーウォーク((一社)日本ウォーキング協会)
3月25～26日	第3回梅小路フェス! Do You KYOTO?

ウ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

子どもや家族連れが快適に過ごせるよう、良好な管理及びイベントの充実に努め、特に平日の利用の拡大に努めた。トイレ・親水施設等の小まめな清掃、夜間に侵入するシカの糞の除去、プレイパークゾーン法面の侵食の監視等、安全・安心に特に配慮した。

エ 多世代向け事業（プレイパーク、青空健康づくりプログラム等）

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園で、子どもの「遊び、学び、体験」の場を提供するプレイパーク事業を行った。平日にも乳幼児と保護者、平日放課後の小学生を対象としたプログラムや多世代が交流できるプログラムを行った。また、だれもが気軽にできる運動としてウォーキング教室等の健康づくりプログラムを実施した。

a 梅小路公園プレイパーク

「あそびのリーダー」となる大学生等のボランティアを中心に運営を組織し、毎月2回、定例の活動を実施した。季節にちなんだプログラムも数多く採り入れた。

- ・活動日 第2・第4土曜日
- ・実施回数 定例活動、特別企画及びグリーンフェア 計26回（27年度は20回）
- ・参加者数（子ども・保護者） 計3,335人

b 梅小路公園ミニ・プレイパーク

幼児と保護者、または小学生を対象として、小人数による自然遊び等を行い、公園を「居場所」として感じていただく「ミニ・プレイパーク」を行った。

- ・活動日 原則第2木曜日の放課後及び第2金曜日の午前
- ・実施回数20回（27年度は12回）
- ・参加者数 のべ710人

c 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動は、昨年度に比べ開催回数を増やして実施したが、天候不順等により参加者数は減少した。このほか、工夫を凝らした季節の特別イベントも開催した。

① 通常プレイパーク 35回（27年度26回）

- ・活動日 原則日曜日 ・参加者数 のべ4,885人（27年度8,838人）

② 特別イベント

- ・4月20日 青空に泳ぐこいのぼりを見よう44人（こいのぼりのペイント）
（4月27日～5月8日 こいのぼり掲揚）
- ・5月5日 ちびっこまつり（京都学生文化児童教化連絡協議会と共催）約1,000人
- ・6月4日 親水空間オープニング企画・ふね作ってうかばせよう 86人
- ・9月25日 ミニ龍狐伝説（様々なミッションを用意し、クリアした子どもがカードを集めるオリジナルのゲームイベント） 約350人
- ・10月9日 昭和DAY（レトロな昭和の雰囲気遊ぶ3世代交流行事）約800人
- ・11月7日 左京子どもふれあいカーニバル（左京区「人づくり」ネットワーク実行委員会との共催） 約2,000人
- ・11月15日 どんぐりまつり（遊びのコーナー） 約1,200人
- ・12月11日 宝龍狐伝説 約250人
- ・3月26日 ミニ龍狐伝説 約160人

③ けむんぱクラブ（宝が池ミニプレイパーク）

平日に4歳児までの乳幼児と保護者（親子）を対象に、森の散歩やもの作り等を通じて、親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

- ・開催日 毎月第2火曜日，第2金曜日（2クラス）
- ・実施回数 計27回（27年度は24回実施）
- ・参加者数 のべ650人

d 青空健康づくりプログラム（ウォーキング教室）

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして，梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を（公財）京都市健康づくり協会との提携により開催。運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム（運動器症候群，通称ロコモ）予防のメニューを多く採り入れた。

- ・講師 健康運動指導士・ヘルスケアトレーナー 松森賢二氏
- ・内容 ストレッチ，正しい歩き方指導，筋トレ，脳トレ，バランス運動，簡易体力測定，アンケート等
- ・季節ごとのテーマ

春～夏クール（4～7月）	軽やかに，しなやかに動ける体をつくろう！
夏～秋クール（8月～11月）	夏バテを予防改善し，秋から体力アップしよう！
冬クール（12月～3月）	寒さに負けず，しっかりと体を動かそう！

- ・参加料 1クール 500円（回数により減額）
- ・開催日 第2・第4火曜日 計24回 のべ898人参加（27年度は25回実施。）

オ 公園ボランティアの運営，連携，支援

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園にかかわるボランティア活動を促進し，学生等の若い力も採り入れ，親しまれる公園づくりを進めた。梅小路公園では，花壇管理，ピオトープ運営，市電車両（総合案内所等）の保全を中心とし，宝が池公園子どもの楽園では，子どもの自然体験のサポートを中心として協力関係づくりと支援を行った

a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

平成19年以降，週2回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか，講習会の運営補助，公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

- ・会員数 平成28年度末現在49人
- ・実績 活動回数128回，参加人数のべ1,214人
- ・公園での他団体との交流 市立白河総合支援学校生徒との花壇の植付け作業，京都音楽博覧会への出展等
- ・「葵プロジェクト」への協力（上賀茂神社境内）
学校，企業等「里親」の協力でフタバアオイを保全する「葵畑」について，周辺の落葉を堆肥化し，畑に還元する作業や，畑の拡張を行った。（5月7日，11月26日）。

b 梅小路公園内「花と緑のセラピーガーデン」活動

レイズドベッド等バリアフリーの観点で造られた通称「セラピーガーデン」の中で活動。身体障がい者，ひきこもり青年，アルコール依存症のリハビリ患者も受け入れ，他のボランティア等との作業を通じた交流も行っている。園芸セルフケア教室（(1)イ a）とも連携。

- ・指導 花と緑の普及員 寺田裕美子（園芸療法士（米国HTR））
- ・第2・第4木曜日 計19回・57人

c 市電車両の保安全管理ボランティア活動

市電車両（チンチン電車，市電ひろばの車両，及び総合案内所として活用している車両）について，「市電ひろば協会」及び「日本路面電車同好会関西支部」と覚書を交

わし、清掃、点検、簡単な整備、保全管理のアドバイス、イベント時に運行していた市電の写真、模型やパーツの展示等の普及啓発にご協力をいただいている。

カ 社会体験活動等の受入れ

公園での社会体験活動、公園管理運営を研修するインターン学生の受入れを行った。

① 総合支援学校の社会体験活動の受入れ（梅小路公園）

市立白河総合支援学校、東山総合支援学校の生徒の社会体験活動を受け入れ、ボランティアとの協働作業を交え、管理活動を行っていただいた。

② インターンの受け入れ

- ・ 京都学園大バイオ環境学部学生 6人 梅小路公園 8月の5日間ずつ
同 学生 2人 宝が池公園子どもの楽園 8～9月の5日間ずつ
- ・ 京都精華大学人文学部学生 2人 宝が池公園子どもの楽園 7～9月 10日間ずつ
- ・ 京都大学大学院地球環境学舎 大学院生（修士）1人 12月5日～3月11日

キ 円山公園巡回・案内業務

国の名勝であり市内有数の観光地である円山公園の施設、樹木の枯損等の確認、サクラ開花（ホームページでの開花状況発信の試行）や紅葉の状況等を含む各種の問合せ対応、及び案内を行う業務を京都市から受託して実施した。また、28年度は祇園枝垂れ桜ライトアップ時のかがり火管理業務を新たに受託した。

(8) 広報・出版

ア 広報誌・パンフレット等の発行

a 京のみどり（季刊）の発行

市内各地の緑に親しみ歩いていただくためのマップや緑を守り育てる地域・団体の取組を紹介する特集を継続。また、グリーンインフラとして注目される雨庭の概念や事例、園芸相談、プレイパーク等事業の概要、京都市の公園緑地施策等の情報を紹介した。

・各号の特集の概要

第79号（夏号） 28年7月発行	特集「失われた巨大池が伝えるもの 巨椋池の軌跡を辿る」【伏見区】（巨椋池の名残を知る、植物の遺跡・横大路沼、京都大学防災研究室ビオトープ等）
第80号（秋号） 28年10月発行	特集「里山の暮らしと自然の姿を残す 大原野の古刹とみどりを訪ねる」【西京区】（山鉦寺、善峯寺等）
第81号（冬号） 28年12月発行	特集「市民と育む都心のみどり屋上庭園とニホンミツバチ」【中京区】（屋上庭園に懸ける中京区の想い、ニホンミツバチが叶える都市緑化の可能性等）
第82号（春号） 29年3月発行	特集「春らんまん桂川、お花見ウォーキング」【西京区】（梅宮大社、松尾大社、サクラの種類を知ろう等）

・部数 各号7,000部

・配布場所・配布先 市政案内所、区役所・支所、市立図書館、東京京都館、公園愛護協会、全国の緑化団体等

b 「和の花」保全に関する小冊子の発行

希少になりつつある京都ゆかりの「和の花」を取り上げ、特徴や栽培方法、関連する

生活文化を伝える小冊子「和の花を育てる」（26年3月発行，国際花と緑の博覧会記念協会助成事業）の続編として，京都市発行の冊子「未来へつなごう！ 京都の生物多様性」の後半部に紙面をいただき，和の花3種を紹介する「和の花を育てる4」を掲載した。

- ・内容（第1章）京都市生物多様性プランに基づく京都市の取組，登録団体の活動等（第2章）カザグルマ，アヤメ，カワラナデシコの3種及び団体・企業等による保全の取組を紹介（当協会コンテンツ提供）
- ・発行 京都市環境政策局環境企画部環境管理課
- ・体裁 A5版，32ページ（第2章は15～32頁） ・配布引受け部数 2,200部

イ ホームページによる発信

協会ホームページ（PCサイト），梅小路公園用スマートフォンサイトを運営し，イベントや京都の緑の文化等のタイムリーな情報提供等に努めた。28年度の年間アクセス件数は過去最高となった。

- ・アクセス件数（Visits）1,011,977件（27年度比10.0%増）（27年度919,589件）
- ※Visits（訪問者数）30分以内の同一IPをカウントしない，実質のアクセス数の指標。

(9) 調査・情報収集

施設の適切な管理や情報発信の基礎資料とするためのモニタリング等の調査・情報収集を行った。

・梅小路公園いのちの森モニタリング調査

京都ビオトープ研究会による梅小路公園いのちの森のモニタリング活動への協力を行った。特に，いのちの森には，開園20周年を迎えたことから，活動実績を振り返り今後を展望する記念誌を発行し，新たな20年のあり方の検討に着手した。

また，いのちの森は，26年度に択伐及び剪定を行って林床の光環境の改善を図り，レフュジア（待避地）として希少な「和の花」を導入し経過を観察しており，28年度もヒオウギ等，新たな植物を導入した。

・宝が池周辺の森林

宝が池公園子どもの楽園周辺では，京都府立大学等と協力し，ナラ枯れ被害集中箇所の更新の推移や，シカ食害の影響等の観察を行った。

・KES生物多様性プログラムの実施状況等

京都学園大学によるKESエコロジカルネットワークプロジェクト参加企業が育成する希少植物の生育状況と環境条件等の調査に協力した。

I-2 京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 22,971千円（予算額 27,406千円）

京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的として，庭園の保全管理業務，その中での庭園講座等への活用，及び優れた庭園に関する情報発信等を行った。

ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い，伝統と創生が調和した梅小路公園「朱雀の庭」について，管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに，新しい庭園の活用策と

してイベント等を行った。

・紅葉まつり

例年好評の紅葉期間中の「朱雀の庭」夜間ライトアップを10日間、自主事業として実施した。周辺施設、ホテル等へのポスター、チラシ配布を拡充し、京都水族館、京都鉄道博物館の当日の入場チケットを持参された方に対し、100円の割引を行うキャンペーンを実施した。昨年度に比べ来園者は大幅に増加（61%）した。

期間 11月18日～27日（10日間） 入園者数 5,586人（27年度3,395人）

イ 庭園情報の収集・発信

京都の優れた庭園の情報を収集し、ホームページ、広報誌「京のみどり」等において実際に訪れていただくための発信を行った。また、海外に向けた日本庭園の情報発信のため、造園関係団体と協力して英文サイトのコンテンツ作成を進めた。

a 「京都発・日本庭園の文化と技術を世界へ発信」事業企画委員会

京都府造園協同組合及び（一社）京都造園建設業協会から派遣された造園家4名、吉田昌弘座長及び事務局で構成。

・開催実績（計7回）第21回～第27回

4月14日、5月10日、6月23日、9月9日、11月17日、1月31日、3月22日

・検討事項 京都の庭園を紹介する英文サイトの構成、国内外旅行者にも造園家が案内できる体制づくり等

ウ 庭園文化講座等

日本庭園に関連する「緑の文化」、伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に、庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

a 庭園文化講座

・受講料 5,200円 ・受講者 のべ93人

・各回の実施内容

回	開催日	内容	講師（敬称略）
第1回	1月26日	日本庭園の歴史と様式	吉田昌弘
第2回	2月2日	日本庭園のデザイン手法	武田純（造園家）
第3回	2月9日	京都庭園研修	吉田昌弘
第4回	2月16日	京都における庭づくり	井上剛宏（造園家）

（※27年度は4回実施。）

b 庭園ガイド活動

庭園ガイドボランティア（I(1)エ関連）による、朱雀の庭・いのちの森のガイド活動で、個人向け（原則月1回）、団体向け（予約制）として実施した。

・ガイド実績 計12回（うち団体2回）実施 のべ案内人数125人（ガイド34人）

c （一社）日本造園修景協会第38回「伝統庭技研修会」の企画運営への協力

庭師の講義、建仁寺・高台寺・圓徳院等の庭園の解説、12月1～2日、60人

エ 平安神宮の庭園景観検討会議（仮称）の運営

名勝平安神宮庭園の保存管理計画（26年度に本協会が策定業務を受託。）を実施に移すための庭園景観検討会議（仮称）の準備（資料収集等）を行った。

II 公園収益事業

決算額 99,390 千円 （予算額 95,107 千円）

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業，自動販売機飲料販売事業，国立京都迎賓館庭園の保全管理業務の受託等を行い，その収益を公益目的事業，及び法人業務の財源とした。

ア 自動販売機飲料販売事業

公園便益施設として，指定管理受託している 2 公園のほか市内 20 公園に自動販売機を設置し，その全収益を公益目的事業に活用した。

イ 梅小路公園収益事業（貸室，遊戯用電車等）

遊戯用電車（狭軌 1 型のチンチン電車）の運行（京都市受託事業），広軌 1 型車両を静態展示する市電展示室の管理を行った。

ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

子ども・家族向けイベント等の充実等で利用増進に取り組んだが，繁忙期の天候不順等から，利用実績（台数）は 27 年度を下回り，2,202 台減（6%減）となった。

エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について，内閣府からの受託事業として，管理保全指針に基づき，造園に携わった造園業者とともに，計画的な景観づくりに努めた。

・人材育成研修への活用 計 6 回のべ 115 人

造園技術者（京都府造園高等職業訓練校，京都府造園協同組合青年部）の刈込み・剪定研修，及び造園系大学学生の池清掃のボランティア作業（岐阜県立国際園芸アカデミー，京都造形芸術大学，東京農業大学，大阪府立大学）

III 法人業務

決算額 3,396 千円 （予算額 3,008 千円）

自律した経営方針を掲げている京都市外郭団体中期経営計画（平成 27～29 年度），公益認定関連の法令及び内外の情勢に対応し，法人業務を行う。

(1) 理事会・評議員会

理事会を 2 回，評議員会を 1 回開催した。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第 11 回理事会	28 年 5 月 30 日	平成 27 年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第 12 回理事会	29 年 3 月 24 日	平成 29 年度事業計画及び収支予算の件 資金運用規定の執行方針及び計画案の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第7回評議員会	28年6月13日	平成27年度収支決算の件 評議員選任の件

(2) 会計・税務・組織対応

公益認定の継続，公益目的事業の着実な遂行のための会計・税務・組織対応を引き続き進め，運営の透明性の確保に努めた。

ア 京都府立入検査（平成28年度公益法人立入検査）への対応

- ・定期提出書類（公益目的事業比率算定に用いる財務書類）の是正指示（1月4日）
- ・立入検査（2月1日）
検査対象 平成25年度以降の年度に係る組織運営・事業活動・財務全般
指摘事項 理事会みなし決議の議事録作成，監事重任手続きの不備等

イ 公益目的事業比率

平成26年度（決算66.3%），27年度（決算66.4%）に対し，平成28年度（決算）は66.7%とほぼ横ばいとなった。

(2) 計画的な教育及び研修の実施による職員の資質と能力の向上

指定管理業務，都市緑化の新規事業に対応するため，専門的な人材を採用，育成する。各事業で顧客満足度の向上を図ることができる職員を養成するため，マニュアル等の内部研修，専門分野の外部研修を行った。

- ・派遣回数約10回 派遣人数約13人（京都市基本理念，遊具点検，労務・福利厚生，コンプライアンス推進，公園管理実務者会議，全国及び関西地区花と緑の相談所連絡会議，日本植物園協会技術講習会，在京植物園情報交換会等）
（平成27年度は派遣回数約15回，派遣人数約18人）

事業報告の附属明細書について

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。